



Kobe University Repository : Kernel

タイトル Title	名匠天野三吉の作品をたずねて(A Study on Craftsman Sankichi Amano's Masterpieces)
著者 Author(s)	田草川, 善助
掲載誌・巻号・ページ Citation	海事資料館年報,18:19-20
刊行日 Issue date	1990
資源タイプ Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
版区分 Resource Version	publisher
権利 Rights	
DOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81005768

Create Date: 2017-12-08



名匠天野三吉の作品をたずねて

田草川 善 助

現在天野三吉の作品（弁財船模型）で所在の判明しているのは、

天昭丸 昭和五年拾月（神戸商船大学所蔵）

日本丸 昭和七年一月（右家家旧蔵）

（神戸海洋博物館所蔵）

宝玉丸 昭和十一年一月（横浜国立大学所蔵）

の3隻で、他に同数程作られていることは証言されているが、その所在は不明である。

1.

昭和62年9月第4回全国北前船セミナーが加賀市の国民宿舎「片野荘」で開催されることを知り情報を得るべく参加した。

その情報交換の席で、天野三吉作の模型船について話しをして「宝玉丸」模型の写真を回覧したが、会場では何の反応もなかった。

会が終了すると間もなく参加者の一人が見え、

名刺に福井県河野村収入役 右近了一とある。氏の話では河野村役場ロビーに「八幡丸」という模型が飾られて居り「宝玉丸」の写真と全くよく似ていると思われるので是非来河されたいとのことであったが、日程の都合で後日を約した。

それから一ヶ月程して右近氏から「八幡丸」の写真が数葉送られてきた。

その後も、河野村へ行く機会はなかった。

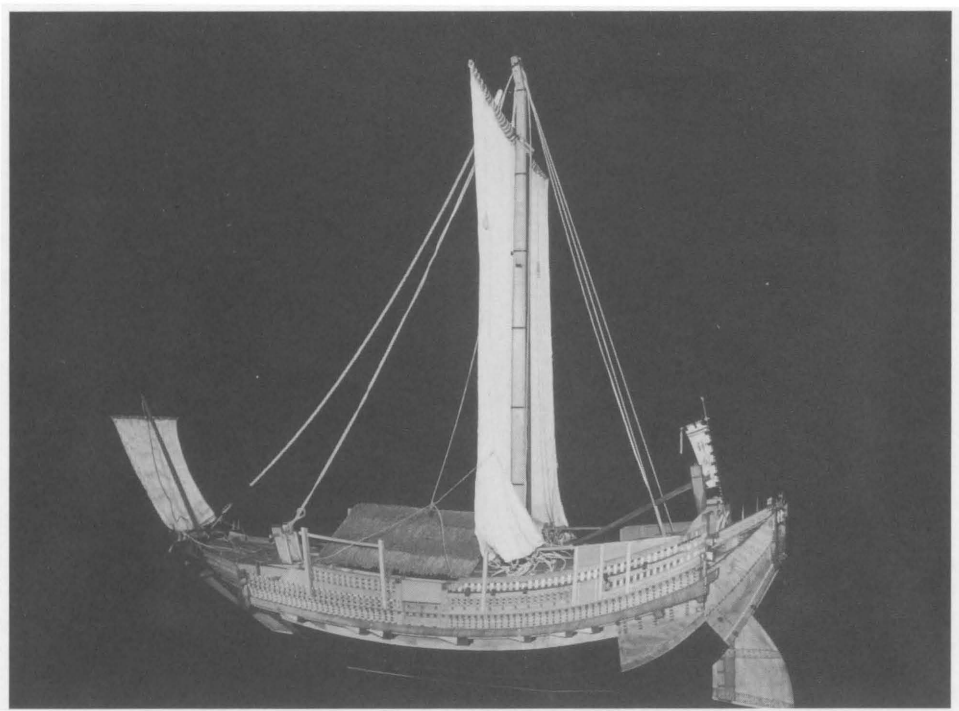
寄贈されてきた海事資料館年報を見ていて、ふと巻末の第27回海事調査報告を見ると、

調査地 福井県河野村村役場

日 程 昭和63年3月

調査者 松木 哲・北野耕平とある。

調査内容の中に右近家の芦屋の家に、小型の和船模型がもう一隻ある。と云う記事が目を引くが「八幡丸」模型についての記述の中には製



天野三吉氏作「神国丸」 右近家蔵

作者について何もふれていない。

2.

ようやく機会を得て越前河野村に行くことになった。

バスから降りると河野村役場は、波の花が舞い上がる鉛色した日本海を背に建っていた。

役場の入り口には、右近氏が出迎えに見え、かたわらの鉢植えの水仙が印象的だった。

直ちにロビー中央の「八幡丸」の調査に取りかかる、がこれは天野の作品ではない。

「久恵丸」十分の一図が表装されて額にしてあるが、部屋に入り切れずにおかれていた。

この図は河野村右近家所蔵で、かつて敦賀湊の福地太郎兵衛が右近家の船「久恵丸」を造った時の設計図とのことである。

3.

河野村を再度おとずれたのは、偶然のことからで、平成2年第7回北前船セミナーで、たまたま筆者の隣に座られた河野村清水村長に声をかけた。

村長とは前回右近収入役（現助役）に紹介されて面識があった。村長は河野村に「北前船主の館」として右近家が公開されたので来河されては、とのことで村長に同席することになったのは今回のセミナー講師柚木学関西学院大学教授、郷土史家の刀弥勇太郎氏と筆者の他に、この話を伝え聞いた右近家見学希望の人達で計3台の車で河野へ向かった。

右近家は役場のすぐ前で、一行の案内には右近助役が当たられた。

資料館は役場の手によって、なかなかよく整備されており収蔵品も良いものがある。

村役場にあった「久恵丸」の図も「八幡丸」の模型も共にこちらに飾られていた。

見学者一行におくれて奥の部屋に入った時、近付いて来た右近氏が「これです」と床の間の模型船「神国丸」を指差した。

聞けば「北前船主の館」右近家開館を記念して右近家芦屋の本宅より出品されたものとのこと。

一目で天野の作品と筆者にも判かった。

念の為右近氏と二人で証拠探しに取りかかった。まず苫を外し中を見ると胴の間にびっしりミニチュアの酒だるが並んでいた。それも永い間のためか籬が外れてごみ同然の有様、それを取り除き踏立板を掲げて裏を見ると何もない。右近氏もいささか不安の態で「大丈夫ですかねー」と。筆者「天野の作品なら必ず何か書いてあります」と、もう一方の踏立板を掲げる作業に再び取りかかった。すると、そこには墨黒々と

昭和九年拾月吉日

大阪 天野造船所 天野三吉とあった。

(附記)

河野村を初めて訪れた時、清水村長より「特務艦関東の遭難」上坂紀夫著をいただいた。

これは福井県南条郡河野村置村百年の心の事業として刊行されたもので、大正13年12月猛吹雪の越前海岸で遭難した「関東」の乗組員が仮死状態で浜に漂着したものを、この女性達が自分の肌であたためて救助したとのことで本書を読んでたいへん感銘を受けた。この地はこうした歴史もあるところである。

横浜国立大学講師